

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295800060		
法人名	有限会社 政経		
事業所名	グループホーム 牧之原波津の家		
所在地	静岡県牧之原市波津1324-17		
自己評価作成日	平成22年7月15日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>食事は、3食すべて手作りメニューである。 入浴は毎日あり自由に入れる。 毎日(好きなときに)散歩、外気浴ができる。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai-go-kouhyo-shizuoka.jp/kai-gosi-p/informationPubl ic.do?JCD=2295800060&SCD=
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当グループホームは、牧之原市でも旧相良町地区海岸寄りに所在し、平成21年6月開設後、丁度1年を経過した施設であります。入居の利用者も比較的、元気な方が多く、施設内での利用者各位の活発な往き来で館内は明るい雰囲気です。同じ運営法人系列のグループホームから転籍された経験豊富な館長(施設責任者)を中心とした職員同士のチームワークは良く、地域に所在する諸インフラからの信頼も厚い施設であると感じます。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 しずおか創造ネット		
所在地	静岡県静岡市葵区千代田三丁目11番43-6号		
訪問調査日	平成22年7月28日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を各所に貼り、外部の人にも分かる様になっている。ゆったりと楽しく自由に暮している。	施設内の各所に「ゆったりと楽しく 自由にありのまま 仲間と一緒に暮らす」との理念が掲示され、利用者各位は勿論、職員との流れの中でも、その雰囲気を感じる事が出来ました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	時々、地域の人が面会に来てくれたり、隣の畑の人からお花や野菜をいただいたりしています。	施設への面会者も多く、特に近所に住んでいた仲間だった方、地域柄、農業や漁業の方も多く、訪ねて下さる時は、その季節の新鮮な品々が届けられます。お隣の農家からも季節の野菜や花々を常時いただいたり、利用者との交流も盛んです。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会の集まりに参加できるようになりました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を行ないサービス向上に活かしている。	運営推進会議は隔月、家族の方、数名の参加を得て定期的開催されている事が確認されます。地域包括・民生委員・市の職員の方が毎回出席、ホームの職員で町内会役員の方が町内代表として出席、内容を町内に繋いでいるとの事です。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの依頼を受け入れ見学会等を行い協力関係を築く事ができた。	最近では、市の民生委員対象の見学会や、市が主催する要介護者と暮す家族で構成されている「介護者の集い」(今回は18名参加)の皆さんの見学会等、市・諸機関との積極的な取り組みや連携を聞く事が出来ました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等において身体拘束を理解し拘束しないケアに努めています。	玄関には「身体拘束ゼロ宣言」のポスターが掲示され、ミーティングや研修時、虐待の問題も含めて、この問題に取り組んでいるようです。玄関も施錠はされてなく、調査中においても、家に帰ると外へ出て行った利用者のウシロ姿を追って、職員が帽子を渡して一緒に外を散歩する姿を見ました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加してもらい理解を深め管理者も注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議の場で話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者(責任者)が利用者家族と十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族も出席して頂けるよう声掛けしている。	日常、面会に来られる家族も多い施設で、月の請求書は手渡しをする事を基本にもしているため、意見・要望等、吸収しやすい環境が出来ていました。運営推進会議には毎回数名の出席がありますが、カバーされるシステムです。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月1回行ない話し合っている。	運営母体が管理するグループホームは広範囲に及ぶので地域毎に構成された地域責任者会議が毎月15日に開催され、その後、毎月開催される職員会議で組織内の意思が徹底されると共に、職員各位からの意見・提案の場にもなっていました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力 実績を把握し見直しに努めてくれています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の研修や年2回研修を受ける機会を与えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年2回の研修以外にも交流の場がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族とのコミュニケーションを図り、信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプラン作成時、家族よりの要望をしっかりと聞くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期のケアプラン作成時は、期間を短くし、より良いプランに変更できるよう対応する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に 勉強し合い 知識を分け合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を大切にし、本人を孤立させないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り対応している。	近所の神社には、常に数人のお年寄や子連れなどが居られるし、その中には利用者の知人も多いので、天気の良い日に欠かさず散歩時に立寄ることにより旧知の仲間や知人にお会い出来、双方に喜んでもらっているとの話ができました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人を把握し支え合うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ 相談や支援に努めます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り行っている。	開設後の若い施設であるので比較的、お元気な利用者が多く、それなりに自己主張が強く、行動的な方々も多いようです。入浴時に困らせる方も多いようです。限りある職員構成の中で、ひとりひとりに丁寧な対応をしている姿が印象的です。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族とのコミュニケーションを密にして情報収集と把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	コミュニケーションを図り現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からの要望等を聞き、会議時に話し合いケアに反映している。	各フロアで開催されるフロア会議に於いて、個々の利用者について話しあって介護計画に反映させて居る事が確認できます。面会のため施設に出入りする家族も多いので、その都度、家族からの意見も取り入れ計画に反映させていました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を重要視して会議等で話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩コースも幾つかあり、毎日の生活の中にとり入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人 家族の希望を聞き 良い関係を築いている。	土地柄、掛かりつけ医との関係を大切に家族が通院支援を行っている利用者も多く見られますが、協力医との連携は出来ていて、必要に応じて協力医への通院支援も行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職はいないが経験者はいるので相談しながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院へ様子を見に行ったり、関係者、家族と情報交換に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	未だ事例はないが、家族と話し合い希望なら、職員と話し合い検討したい。	事業所として、この問題は、考えてゆく必要と認識しているようですが、現段階としては、事例が察知されれば家族と話し合い、訪問看護の導入等によって解決して行きたいとの姿勢を聞く事が出来ました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者は講習会等に参加予定もあり、職員も総合訓練等により勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合訓練は年2回行うようになっている。地域との協力体制は、これから築いていきたい。	災害の問題は施設のみでの行動では限界があるので、老人会や自治会を通じて館長自らPRしているが、一部役員から「お宅は営利企業でしょ」との返事が返ってきて、協力への理解がいただけないのが現状のようです。	介護保険における地域密着型サービスとしてのグループホームへの理解や当該分野への民間企業参入の意義を官民協力して住民へ理解して頂くよう期待しています。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に、人生の大先輩である事を意識して対応している。	館長や職員からのヒアリングを通じて、本件に関しての基本的な態度を感じることが出来ました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類一つにしても本人の好きなものを選んでいただけるようにしている。 声掛けしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向を聞き、希望に添うよう支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	相談したり、おしゃれができていたら誉め、共通の話題となるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	片付けは、毎日手伝ってもらっているし、その他にも、出来る人にはやってもらうようにしている。	昼食時、準備から片づけまで、自分の持ち場を理解し手伝ってくれる利用者を確認できました。 食事は一汁三菜の基本を守り、土地柄、サシミなど魚介類も多く、新鮮さには神経を遣い、それが自慢と聞きました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介助の必要な方には付添い、記録し、食事量のチェック、水分制限ある人のチェック等、行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	手掛けや介助にて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をつけ、声掛けしながら、トイレで排泄できるよう支援している。	オムツの方が一人もないと聞きます。高齢化や重度化で避けられなくても、現段階では、各部屋の様子がセンサーによって理解できるので、その日の個人記録と併せて、極め細かな支援を可能としていました。	現状、良いカタチで推移はしていますが、利用者各位の加齢による、将来の、様々な問題を想定しての更なる支援を期待いたします。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物せんいやヨーグルト等、排便を即す様な飲食物を適度に摂れるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、全員に入浴するか聞き、一人一人に決定していただいている。	毎日を清潔で快適に過ごしていただきたいと言う気持ちから、毎日の入浴を勧めているのですが、無理やりの入浴は避けて、その時の気持ちを大切に、拒否された場合は、時間を変えて勧めたり、休止したりと、極め細かな支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間もちがうので、個々に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に新しい薬情に目を通す様、心掛け、不明な点は薬剤師 医師に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節にあった行事を考えて行ったり、出掛けたり、食材の買物にも同行してもらい気分転換を図ってもらう。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族にも協力していただいている。	本人の希望を実現させる為に、海岸を散歩する事まで支援計画の中に取り込み支援をしていました。家族の方の出入りも多いこの施設では、家族の方との外出も日常的になっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば一緒に買物に行くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、その都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり。絵やイベント等の写真を飾っている。アットホームな空間作りを考えている。	施設内のレイアウトは1F・2Fともに、共有ホール厨房の反対側には外からの明るさを充分吸収できる大きな窓、両側に居室、利用者各位ともにホールと居室を自由に行き来できる落ち着いた雰囲気があります。利用者各位の、のんびりとした落ち着いた着きある行き来が印象的でした。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	トラブル等があれば、職員が間に入る等、常時気配りしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と相談したり、家族より聞き 使用していたタンス等を置いたりしている。	居室内は、本人、思い思いの調度品を持ち込み生活の場としている事が確認できました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の利用者の状況を把握し、職員間での情報交換をしっかりと行うようにしている。		